



広野町復興祈念花火大会は、

8月11日(土)に広野町築地ヶ丘公園をメイン会場に開催しました。

あいにくの雨模様にも関わらず、多くの来場者が会場を訪れました。

午後3時から物産販売には、18の事業者、団体が出店し、会場を盛り上げました。

ステージでは、バンド演奏やフラダンスなどが披露されましたが、広野昇龍太鼓が雨天のため演奏はできませんでした。

また、昨年の震災時に避難でお世話になった小野町長、平田村長、石川町長が会場を訪れ、激励のあいさつをいただきました。

花火大会は、LIGHT UP NIPPON提供の創作花火「赤とんぼ」など、尺玉30発を含め4,000発の花火が打上げられ、盛大にまつりをしめくりました。

勿エフラガール (マウロア・ラウレア)

雨でステージが滑りやすかったが、雨の中、たくさんの方が私たちのフラダンスをみてくれたので楽しく踊ることができました。

今後もフラダンスを通して広野町民に元気を与えていきたいと思ひます。



手当ての輪

昨年の3月17日に広野町民のみなさんが埼玉県三郷市に避難してきたときから継続的に関わらせていただきましたが、広野町民のみなさんがみんないい人だから続けてこれたのだと思ひます。

今後も広野のみなさんがつくったアクリルたわしの支援を行い、アクリルたわしを売るお手伝いをしていきたいと思ひます。

私たちにできることは、これからもずっと続けていきます。

手当ての輪とママSUNスマイルの方々 ▶



ママSUNスマイル(常磐仮設住宅入居者の有志)のみなさんから「米ぬかホットパック」の売上の一部を広野町の子もたちに役立てるため、町に寄付していただきました。

この「米ぬかホットパック」は、ママSUNスマイルのみなさんが作り、埼玉県のボランティア団体の「手当ての輪」のみなさんがインターネットを通じて販売。

「手当ての輪」の北川さんは、「米ぬかホットパック作りを通じて仮設住宅のみなさんが集まれる場所を提供していければと思ひます。広野のみなさんが受身ではなく、自発的に活動するきっかけをつかっていきたいです。」と語ってくれました。

ママSUNスマイルの犬塚さんは、「米ぬかホットパックをつくるのが町のためになるから頑張れます」と力強く話してくれました。

